

2015年3月期 第3四半期決算 アナリスト向け説明会 質疑応答摘録

2015年2月4日
富士重工業株式会社

Q：第4四半期計画について、海外の販売台数は対前年13千台の増となっているにも関わらず、営業利益増減要因にある「売上構成差」の「海外」はマイナスとなっている。その理由を教えてください。

A：第4四半期計画の「売上構成差」には特殊要因が含まれています。米国西海岸での港湾荷役作業がスローダウンしており、このままでは日本からコンテナ輸送している、米国生産工場SIA向けのCKD部品が滞ってしまう可能性があります。そのため、SIAの操業に支障をきたさないよう、船便輸送を航空便に切り替える手筈を整えています。この航空便による追加コストとして、「売上構成差」の「海外」に約70億円を含めています。尚、完成車輸出への影響はありません。また、「売上構成差」の「その他」については、中国、ロシアにおいて当初の想定より小売販売が弱含んでいるため、第4四半期は中国向け、ロシア向けの日本からの完成車輸出を減らして、米国向けに振り替えています。振り替えることによって、収益の認識時期が遅れ、今期で区切った時には、「売上構成差」を悪化させる要因となります。

Q：第4四半期計画の営業利益増減要因について、「試験研究費」が▲125億円となっている。試験研究費を第4四半期に多く使う計画とのことだが、こういった項目が含まれているのか。また、来期の試験研究費の考え方を教えてください。

A：試験研究費については、第3四半期と第4四半期を比較すると、第4四半期のほうが105億円多くなる計画です。第2四半期決算時に、試験研究費の通期計画を100億円積み増し、外部リソースの活用を発表しました。その大部分が第4四半期に支払いされます。これは計画通りに進んでいます。また、新中期経営ビジョンで掲げている3年間の試験研究費総額2,500億円に変更はありません。来期も今期レベルを予定しています。

Q：ロシアの販売状況について、マーケット環境や値上げの状況などを教えてください。

A：極めて厳しい状況です。エネルギー価格下落等によってルーブルがドルに対して半分くらいまで落ちており、値上げを検討せざるを得ない状況です。足元では値上げを予測した駆け込み需要が発生しており、12月の小売販売台数は前年比157%となりました。やみくもに為替分を値上げすればよいというものではなく、ロシアの販売体制を維持できるレベルで、ある程度の支援を行いながら、ある程度の値上げを検討せざるを得ないと考えています。

Q：ロシアでの販売体制を維持するための、最低限の台数はどのくらいをイメージすればよいか。

A：ディーラーがスバルの扱いを止めてしまうとか、認知活動を止めてしまうというようなことが無いようにしたいと考えています。今年の暦年小売販売では14千台を計画していますので、メーカーからの支援も織り交ぜながら、値上げをしてでもこのくらいはやっていきたいと考えています。

Q：国内の販売について、エコカー減税の制度変更はスバルにとって厳しい内容になるかと思う。税制変更は足元の販売や、来期以降の販売計画にどのような影響を与えているか。

A：当初、2015年基準がなくなり、2020年基準だけになるということが懸念されましたが、そこからは少し緩和され、2015年基準が一部残りました。業界全体にとっては好ましいことですが、他銘との競争は激化すると思います。相当気を引き締める必要があります。燃費だけでは当社は厳しいので、アイサイトを中心とした安全への訴求を中心に、色々な施策を織り交ぜて、4月以降は戦っていかなければいけません。各社同様だと思いますが、3月にかけて駆け込み需要も一部発生するかもしれませんが、その度合いはまだわかりません。

Q：新型レガシィが欧州や中国などにもこれから徐々に導入されてくると思うので、その感触について教えてほしい。

A：新型レガシィの販売は米国で想定を一部上回る状況です。中国、欧州については、導入からまだ間もないですが、評論家やマスコミなどから高い評価をいただいています。そういった評価が実際にお客様への販売につながるかどうかについては、もう少し様子を見たいと思います。

Q：今期から来期を考える上で、コスト構造の変化に大きくネガティブに振れるような要素はあるか。

A：今期に比べコスト構造などで大きく変わる要因はありません。試験研究費や設備投資も、ほぼ同じ状況です。一方で、従来に増して好調な市場と難しい市場との差が出てきています。米国のディーラー在庫は1月商いくかいかないかなので、難しい市場の分を米国に回すことで、米国での卸売を伸ばす余地は大きいですが、一方で、厳しい市場をそのまま放置してよいわけではありません。国内での4月以降の環境税制でどのように競争環境が激化していくか、スバルは戦い抜いていけるかが、一つの鍵だと認識しています。

Q：年度ベースでの生産能力について教えてほしい。

A：1月に発表した通り、2016年3月期までは足元の生産能力が続きます。昨年10月にチョコット能増を行い、本工場は202千台、矢島工場は427千台の国内629千台、SIA200千台というのが足元の状況です。2017年3月期になると、上期にSIAで18千台の追加能力増強を行います。レガシィ/アウトバックの生産ライン能力を増強します。2016年末には、SIAでインプレッサ生産を開始するため、11万台の能力増強を行います。

Q：通期計画が上方修正されたが、一方で配当は据え置きとなった。配当の考え方について教えてほしい。

A：配当政策を変えたのではなく、四半期での配当計画変更は行いませんでした。連結配当性向20～40%を基本とする考え、その中での運用の考え方については変わっていません。年度決算が締まった時点で、期末配当についてアナウンスしたいと考えています。

以上